

令和5年2月16日(木)

PRESS RELEASE

『万葉植物画展～アートと万葉歌の出会い～』

展示会を開催します。



写真は2022年3月 平城宮跡歴史公園

平素より国営飛鳥歴史公園の運営にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

国営飛鳥歴史公園では、2023年3月1日(水)～4月9日(日)まで、『万葉植物画展～アートと万葉歌の出会い～』を開催します。昨年3月より全国の国営公園で巡回展として開催された本展示会は、万葉集のふるさと『飛鳥』でフィナーレを迎えます。飛鳥では、本公園と万葉集にゆかりのある犬養万葉記念館との2箇所で開催いたします。万葉集に登場する植物「万葉植物」をテーマに日本植物画倶楽部会員75名、英国キュー王立植物園専属ボタニカルアーティストのクリスタベル・キング氏、山中麻須美氏により描かれたボタニカルアートを展示。1300年の時を超えて、古の詠み人と現代のアーティストとの出会いにより生まれたボタニカルアートをお楽しみいただけます。

つきましては、ご多忙中のことと存じますが、皆様には是非取材ならびに記事掲載のほど、よろしくお願いいたします。

問合せ先 国営飛鳥歴史公園 飛鳥管理センター広報担当 伊藤・深町・東山

TEL 0744-54-2441 / FAX 0744-54-4633

〒634-0144 奈良県高市郡明日香村大字平田 538 <https://www.asuka-park.jp/>

【イベント詳細】

【イベント名】

万葉植物画展～アートと万葉歌の出会い～

【期間】

2023年3月1日(水)～4月9日(日)

【会場】

国営飛鳥歴史公園 キトラ古墳周辺地区 四神の館(シアタールーム) (9:30～17:00)
犬養万葉記念館 (10:00～17:00 入館は16:30まで) ※水曜日定休日

【観覧料】

無料

【主催】

国営飛鳥歴史公園、一般財団法人公園財団、日本植物画倶楽部、犬養万葉記念館

【共催】

奈良新聞社

【協力】

猪名川万葉植物園



作品介绍

坂門人足（卷一・五四）

見つつ偲はな 巨勢の春野を

巨勢山の つらつら椿 つらつらに

ヤブツバキ（ツバキ科）



巨勢山のつらつら椿の木をつらつら見ながら偲ぼうよ。椿の花咲く巨勢の春野のありさまを。

大宝元年（701）の紀伊行幸（文武天皇、持統上皇）の折に詠まれた歌。

『続日本紀』によれば、9月18日（太陽暦10月27日）に明日香を出発し、10月19日還幸した。

巨勢は奈良県御所市古瀬の一帯で、巨勢山はその付近の山を指す。紀伊への旅には、明日香を出て巨勢山を通りこの地で休憩があり、その時、この歌が詠まれたとみられている。

「偲はな」は、ある物を媒介にして眼前にないものを慕わしく思い浮かべる意で、この行幸時はツバキの花のない晩秋であるが、花の咲く春の様を思い遣ろう、という気持ちが詠まれている。

「つらつら椿」は、繋がった葉の間に点々と連なって花をつけている椿とする説の他、原文の「烈々椿」より、椿の並木とする説がある。

フジ (マメ科)



恋しけば 形見にせむと 我がやどに

植ゑし藤波 今咲きにけり

山部赤人 (巻八・一四七一)

恋しい時には、あの人の代わりに眺めようと、我が家の庭に植えた藤の花は、今花盛りだ。

夏の雑歌。藤はわが国には、フジ(ノダフジ)とヤマフジ(ノフジ)の2種類があり、蔓の巻き方が異なり、ノダフジは右巻き、ヤマフジは左巻きで花穂はノダフジの方が長い。フジは万葉集中27首詠まれている。「藤波」は藤の花房が風に揺れる様を波に見立てた歌語。「形見」は、それを見ることで人を思い起こす縁の品のことで、生存する者同士でも用いられた。

惚ぼうとした相手は女性で、『万葉集全注』によれば、「恋情を寄せる人の形見として植えた藤の花の開花を喜んだ歌」とある。類想歌に、「恋しくは 形見にせよと 我が背子が 植ゑし 秋萩 花咲きにけり」(巻10・2119)がある(こちらは女性の作)